

桜児通信

2014 no.30(号)

題写♡marina

イラスト♥ 幸 2052Gulla

sakurako tsu-shuu

「ボクたちはみんな猿だ！」

ナイジエリアの少女たちを救出しよう。そのためにできる!】と・・・

世界はこんなに「進んだ」というのに、しかしまだ尚、「差別」が残る現実がある。僕たちは何もできないのだろうか。

「差別」という悪に対し、こんなスカッとするニュースが先日ありました。今年四月二十七日の出来事です。

サッカーのスペイン1部リーグの試合中、FCバルセロナ所属、布拉ジル代表のアウベス選手は観客がグラウンドに投げ込んだバナナを拾つて食べ、プレーを続けました。バナナを投げ込むのは、黒人をサル扱いするという意味の差別行為です。観客たちも知っていました。それに対し、アウベス選手はバナナを食べるというユーモアで返しました。試合はアウェース選手のチームが逆転勝ちをしました。同僚のブラジル代表ネイマール選手は試合後、「俺たちは皆サルだ。皆同じ。人種差別にNOを!」とツイッターで呼びかけ、たくさんの選手が同調しました。多くの人が拍手を送ったのです。

2011年、ノルウェーで首都オスロ中心部とウトヤ島の二カ所で連続テロ事件があった。77人の人が殺された悲惨(せいさん)な事件だった。この事件の直後、遺族や国民が悲しみに暮れるなか、この国の首相はこう宣言した。「悪は人を殺すことはできない。しかし、決して人々を征服することはできない」。島にいながら殺されなかつた十代の少女の言葉は素晴らしいものでした。その瞬間のほんの数分前まで彼女はどこにでもいる普通の少女は「一人の男がこれほど憎悪を見せたのなら、私たちどれほど人を愛せるかを示しましよう」と言いました。犯人の男は、死刑や終身刑がないノルウェーで最も重い禁固21年の実刑判決を言い渡された。この判決を聞いた遺族たちはこの悲惨で不条理な事件を愛と知恵で克服しなければならないと思つたと言います。

パレスチナの医師イゼルディン・アブエライシュさんは軍事テロに

より目の前で3人の娘を殺された。彼は今年2月、「憎まない生き方」という講演会を行つた。生き残った娘さんは右目と右手の指を失つたが、右手で書けなくとも左手で書けると語り、「私は勉強する」と言った。イゼルディンさんは悲しみのなかで、「それでも、私は憎まない。憎しみは病です」と語りました。日本でも波にさらわれた見知らぬ幼子を助けるために海に飛び込み命を失つた若者がいました。今年五月の連休の話です。

人間は「どんなこと」をする動物です。だが、悪にどう立ち向かうべきか、彼らは教えてくれる・・・いや、教えてくれるでは「簡単」かもしれない。何かを「感じ」させてくれる。答えはそんなに生易しいものではない。簡単に答えを出してはいけないと思う。

人間は「めんどくさがり」で全てを一度に解決しようと考へる。一度に解決できると思う「愚かな、怠け者」かもしれない。もしも本当に「一度に」解決する方法があるのなら、僕たちよりもすぐれた人たちが歴史上いっぱいいたはずだから・・・とつくりに解決しているはずだと僕は思う。しかし、依然として世界は「平和」ではない。変わらず、「不幸な運命」に左右される人たちであふれている。善と惡は同時に展開されている・・・僕たちにできることは「悩むこと」「悲しむこと」そして「考えること」「おれずにはいること」かも知れない。

よろしくお願ひいたします。

【数学科 若井理恵】

うみなし 編集後記 雲舎寒九

桜児通信を創刊して三十号を迎えます。この間、発刊されたものを読み返すとなかなかに思い出深いものがあります。こんなことを考えて

いたのだとと思うと「まだまだ」など思うことしきりです。ただこうは思っています、いつも忘れずに「考え続けたい」と。パスカルの「パンセ」にある有名な言葉「人間は考える葦(あし・植物の名)である」は裏返しにすれば「考えなければ人間ではない」ということだと

思つ。僕たちにできることは「考えること」であり「継続」させることがだと思う。しかし、それには「大きな努力」が必要となる。「努力できる才能」が僕の一番欲しいものかもしれません。今年のイラストは思つたことがありました。それは、自身の学力を過信した結果、高校に入り勉強に集中しなくなつたことが原因でした。好きな教科で点数が取れなかつたことが悔しく、それをきっかけに高校数学を基礎からやり直しました。遅れを取り戻すのは時間がかかりましたが、次第に学内

考査や全国模試でも点数が取れるようになり、今では念願の数学の教員になることができました。

生徒のみなさんにおいきたいことは、将来はどうなるか分からないと

いうこと、そしてそれは自分次第であるということです。あのとき諦めていたら、今の私はありません。また、勉強は基礎がとても大切です。みなさんも勉強が上手くいかず悩むことがあるかもしれません。

そのときは焦らず、基礎の部分を一度見直してみて下さい。私もいつ

でも相談に乗ります。そしてその勉強を、自分の夢を叶えるため、あ

るいは将来の可能性を広げるための橋渡しにして下さい。みなさんの

成長の瞬間に立ちあえることをとてもうれしく思っています。一年間、

よろしくお願ひいたします。



Rookies in seishinn 1

初めまして。四月から着任しました若井理恵と申します。担当教科は数学と情報です。

聖心学園中等教育学校で着任するにあたり、自身の中学生、高校生の頃を思い返してみました。私は中学校入学をきっかけに数学が好きになりました。得意教科を聞かれれば数学と答えていました。しかし、高校一年生のときの学内考査で100点中12点という点数を取つてしまつたことがあります。それは、自身の学力を過信した結果、高校に入り勉強に集中しなくなつたことが原因でした。好きな教科で点数が取れなかつたことが悔しく、それをきっかけに高校数学を基礎からやり直しました。遅れを取り戻すのは時間がかかりましたが、次第に学内

壬申の乱とその歴史的背景（第一回）

鶴筆（ジャッコウ） 山口 拓章

昨年度の「桜児通信」で、「東野炎立所見而反見為者月西渡」（『万葉集』巻第一の48）の和歌が取り上げられました。詠んだのは「歌の聖」と評されたり、三十六歌仙に数えられる柿本人麻呂。人麻呂が生きた時代はどのような時代だったのでしょうか？そこで、彼が生きた七世紀～八世紀に起きた事件の中で、最も有名な壬申（じんしん）の乱について扱つてみたいと思います。

およそ三百年に渡る研究史をもつ日本古代史上最大の内乱である壬申の乱はなぜ起つたのでしょうか？まずは、壬申の乱の概略を少し時代を遡つて見ていくことにしましよう。

618年に隋が滅亡し唐が建国すると、唐はの28年に中國全土を統一し、以降版図（はんとー領土）拡大のため周辺諸国への軍事的圧力を強めました。こうして唐の進出に対抗するため、朝鮮三国では中央集権化とそれに伴う動乱の時代が始まります。しかし、このような東アジア情勢は倭国にどうても決して「対岸（たいがん）の火事」ではなく、東アジア情勢に対応するために、倭国（わこく）も新たな道を模索しなければなりませんでした。こうした東アジア情勢を国際的契機として、有名な645年の大化革新（正確には乙巳の変つしのへん）が発生することになります。蘇我（そが）氏中心の権力集中策に対して王族・豪族は反発し、大王家（天皇家）中心の集権化を目指され、その過程で中臣鎌足（なかみのかまたり）・中大兄皇子（なかのおおえのおうじ）を中心として蘇我入鹿（いるか）が飛鳥板蓋宮（いたぶきのみや）で暗殺され、父蘇我蝦夷（えみし）も甘権丘（あまかしのか）の自邸で自殺しました。

☆☆ ☆☆☆ ☆

論語の窓

歳寒（としさむ）うして、然（しか）る後

松柏（しようはく）の彫（しぶ）むに後（おく）るるを知る

（子罕第九、第二十七）

寒い冬になつて初めて松や柏が落葉しないことが分かる。人も困難に直面して初めて、その人の本当の姿や実力が分かる。そしてその困難に怯（ひる）まず、臆（おく）せず前向きに進んだ人が、いかなる時でも人に優しくなれるのだと思うのです。

★●□◎◇▲☆☆☆

「優しさ」とは何かと言ふ文章です。

よく聞く言葉に、「優しい人が好き」「優しい人になりたい」というものがあります。でも「優しさ」の正体は何でしょうか。その正体も知らずに人はなぜそれほどに優しさを求めているのでしょうか。それほど「優しさ」はこの世から失われているということなのだろうか。

「力愛不二（りきあいふに）」という言葉があります。力と愛は二つじゃないという言葉。

意味は僕の大好きなチャンドラーのハードボイルド小説の主人公、探偵フレッド・マーロウの台詞「強くなれば優しくなれない」「優しくなければ生きていける甲斐もない」と同じだと思っています。「優しさ」の正体は難しい。ただわかっているのは「優しさ」は「強さ」とともにあるということ……ひょっとすると「優しさ」こそが世界最強のものかもしれません……（雲）

